

2020年度

カリキュラム編成書

ネットワークセキュリティ科

ネットワークコース(3年生)

学科概要書

作成日： 2020年4月 1日

作成者： 竹村 健司

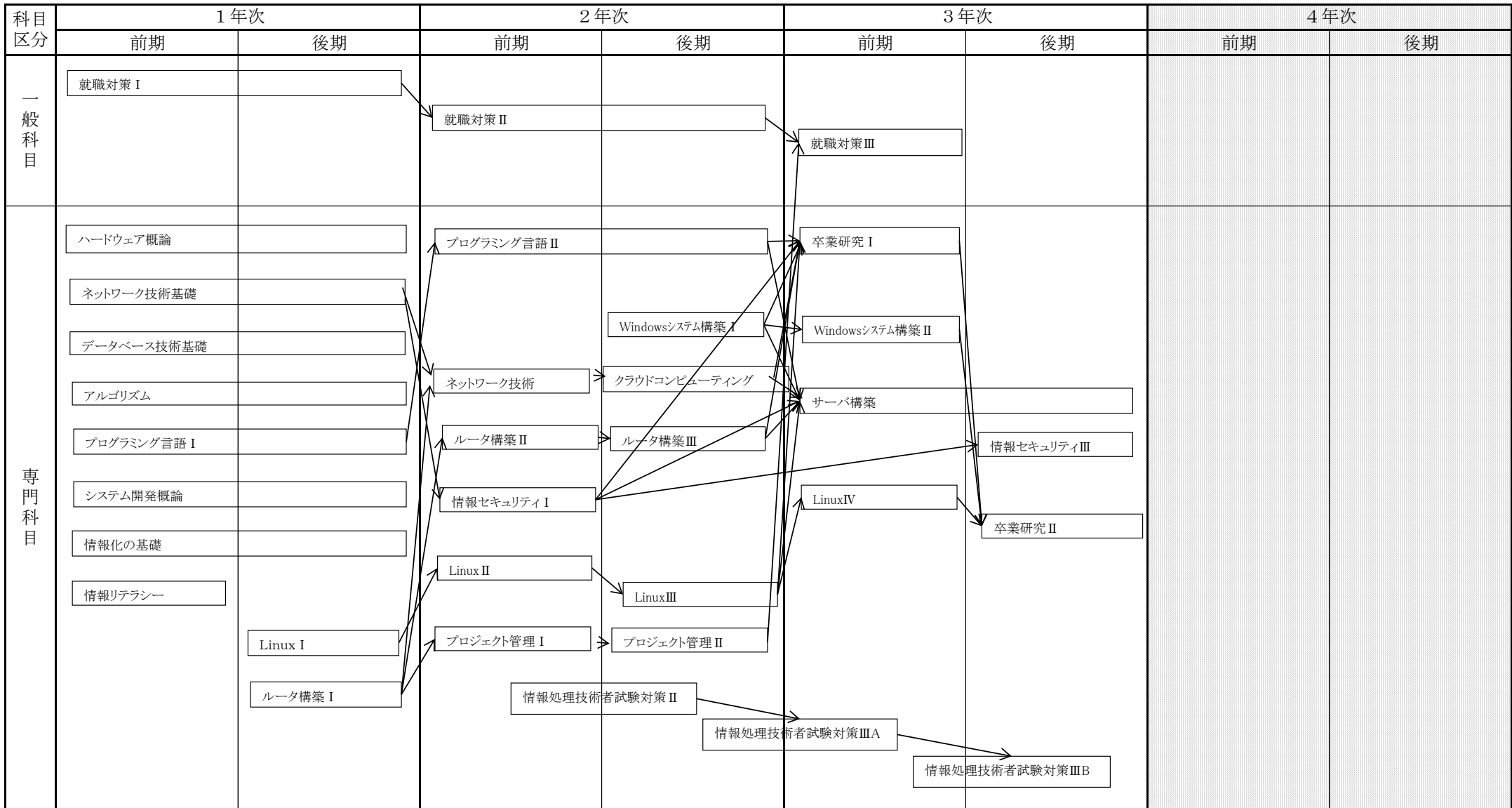
学科名	ネットワークセキュリティ科
コース名	ネットワークコース
所属分野	IT分野

人材ニーズ	現在の企業活動にとってネットワークシステムは不可欠であるが、ネットワークシステム上に業務アプリケーションなどを実行するコンピュータシステムが構築されることにより、企業活動に必要なサービスが利用可能になりえる。その為、ネットワークシステムとコンピュータシステムとの連携も視野に入れ、システム全体の中での最適化を考えながら、対応していくことが出来るネットワークエンジニアの育成を行う。
育成人材像	WindowsおよびLinuxサーバ環境の構築・運用・保守、SE営業職、IT研修インストラクター、そして、ネットワーク運用管理・ネットワーク機器保守、ユーザサポート、トラブルシューティングなど、幅広い職種で活躍できる人材を育成する。
主な教育内容と目標	ネットワークエンジニアに求められる知識は、以下の3つに大別され、これらの中で、現在、WAN系の需要が低くなった代わりにインターネット系の需要が高くなっており、インターネット系をサポートする為には、サーバにインターネット系の設定をできる位の知識がこれからのネットワークエンジニアには求められている。 1. WAN系(ADSL、IP-VPN、広域イーサ、ATM、CATV、高速デジタル回線など) 2. LAN系(無線LAN、イーサネット、ルーティング、TCP/IP、スイッチなど) 3. インターネット系(DNS、メール、WWWサーバ、アクティブディレクトリなど)
目標資格	基本情報技術者試験 CCNA(シスコ技術者認定) SEA/J情報セキュリティ技術認定
目指す職種	ネットワークエンジニア カスタマーエンジニア サーバエンジニア
業界や外部専門家との連携体制	【現状】 SEA/Jアカデミープログラム認定 シスコ・ネットワーキングアカデミー・プログラム実施 LPI-Japanアカデミック認定 CompTIA Authorized Academy 【今後】 データベース関連およびクラウドOS関連の認定資格カリキュラムとの連携強化
特徴	ネットワーク構築・運用・管理に必要な総合力と企業が求める即戦力を、3年間で段階的に学び、シスコシステムズの「シスコ・ネットワーキング・アカデミー」やLPI-Japanの「LPI-Japanアカデミック認定」の実施等で、専門性の高い最新の技術が無理なく修得することが可能で、業界より注目されている多くのベンダー資格取得が可能である。
その他	

科目関連図

作成日： 2020年4月1日

学科名	ネットワークセキュリティ科
コース名	ネットワークコース



シラバス

作成日：2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	就職対策Ⅲ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	3	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	伊藤 克也 竹村 健司	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	目的： 就職試験に合格し、内定を得る。 概要： 受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、より実践的な就職活動のトレーニングを実施する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んであいさつすることが可能 ・自己分析を徹底して行い、効果的に自己アピールすることが可能 ・自己分析の結果から自分に合った仕事を見つけ出すことが可能 ・ビジネスマナーを身に付ける ・スケジューリング能力を高めることが可能 				
目 標 資 格					
前 提 知 識	・高等学校の一般常識科目履修程度の知識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	10	・履歴書・エントリーシートの添削			
	10	・面接トレーニング			
	18	・個人面談			
	計	38			
使 用 教 材	・キャンパスコミュニケーションサイト(就職センターメニュー)				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・クリアファイルを用意すること ・手帳を用意すること 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動状況 80% ・姿勢点 20% で総合的に評価する				

シラバス

作成日：2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	LinuxIV			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	3	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	4	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	竹村 健司	実 務 経 験	大手電機メーカーの社内SEとして、本社・工場におけるネットワークの設計構築支援、トラブルシューティングに携わる。また、社内エンジニアの教育を担当し、指導経験もある		
目 的 / 概 要	目的： CentOS8のネットワーク管理/プロセス管理/ファイル管理の設定・管理方法を習得する。 概要： 実際のLinux環境で、オペレーティングシステムを管理するコマンドを実行し、検証しながら学習する。				
到 達 目 標	・CentOS7のインストールができ、ネットワーク/ファイルシステムの変更や追加ができる				
目 標 資 格					
前 提 知 識	Linuxの基礎コマンドとviエディタが使用できる				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1	CentOSとは			
	2	CentOSのインストール			
	2	基本操作			
	2	ファイル管理			
	2	ファイルシステムの管理			
	2	ネットワークの設定			
	2	パッケージの管理とアップデート			
	3	システムの起動とサービス管理			
	5	ストレージ管理			
	5	システム管理			
5	システムリソースの監視				
5	セキュリティ				
5	コンテナ技術				
5	DNSサーバー				
5	Webサーバー—Apache				
5	Webサーバー—Nginx				
5	Sambaサーバー				
5	SSHサーバー				
5	データベースサーバー				
5	・まとめ				
計	76				
使 用 教 材	・CentOS徹底入門 第4版				
履 修 上 の 意 注	・コマンドは理解することを意識し実行すること ・アプリケーション導入時は、実行環境を必ず確認すること				
成 績 評 価 方 法	・OSSの導入結果 50% ・定期試験 40% ・姿勢点 10% で総合的に評価する				

シラバス

作成日：2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	サーバ構築			科 目 分 類	① 独自 / 共通
履 修 年 次	3	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 ② 実習 ③ 演習
コマ数 / 週	3	総 授 業 コマ 数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	伊藤 克也 竹村 健司	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	目的: クラウド環境における運用管理のスキルを習得する。 概要: 実施に、現場で利用されているクラウドサービスを構築し、設定手順を学習する。				
到 達 目 標	・ネットワーク・サーバの構築・運用・管理やセキュリティを考慮したサーバ設定ができる				
目 標 資 格	CompTIA Cloud+				
前 提 知 識	・WindowsとLinuxの基本操作ができる				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	3	第1章 クラウドコンピューティングの概要			
	3	第2章 ストレージ・ネットワーク			
	4	第3章 セキュリティ			
	4	第4章 クラウドサービスの展開と維持・運用			
	4	第5章 クラウド管理の概要			
	4	第6章 災害復旧、事業継続、および継続的な保守			
	5	第7章 トラブルシューティング			
	10	試験対策 クラウドの概要			
	10	試験対策 仮想化技術			
	10	試験対策 ストレージ技術			
	10	支援対策 クラウドの導入と設計			
	10	試験対策 クラウドの運用と管理			
	5	実習 Openstack 環境整備			
5	実習 Openstack 基本編(CUI)				
5	実習 Openstack 基本編(GUI)				
5	実習 Openstack 応用編(CUI)				
5	実習 Openstack 応用編(GUI)				
5	実習 Openstack 上級編(CUI)				
5	実習 Openstack 上級編(GUI)				
計	114				
使 用 教 材	・Get! CompTIA Cloud+ クラウド時代の必修科目(試験番号:CV0-002) ・Cloud+ 問題集 CV0-002対応 ・Openstack実習オリジナルプリント				
履 修 上 の 意 注	・実習では、できるだけ自分で考察して作成すること ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をすること				
成 績 評 価 方 法	・定期試験 50% ・実習課題 40% ・姿勢点 10% で総合的に評価する				

シラバス

作成日：2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	卒業研究 I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	3	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	4	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	伊藤 克也 竹村 健司	実 務 経 験	(竹村 健司) 大手電機メーカーの社内SEとして、本社・工場におけるネットワークの設計構築支援、トラブルシューティングに携わる。また、社内エンジニアの教育を担当し、指導経験もある		
目 的 / 概 要	目的： 学習成果をまとめ、プレゼンテーションを行うことで、仮説検証力や問題解決力を習得する。 概要： 各自が研究目標を設定し、研究環境を構築を行い、総合演習として、いままで学んだ技術をもとに应用システムを研究する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が研究目標を設定する。 ・各自の研究内容の環境を構築する。 ・各自の研究内容を研究計画書にまとめる。 ・卒研週報を毎週提出する。 				
目 標 資 格					
前 提 知 識	アルゴリズムを理解していること。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	7	・各自で全体テーマ「可用性対策」を元に何を行うかを決める。			
	4	・進捗スケジュールを各自で決める。			
	15	・資料収集・開発			
	40	・卒業研究の環境構築			
10	・卒業研究の環境検証				
計	76				
使 用 教 材	・参考文献				
履 修 上 の 意	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ選びが大切ですので慎重に決めてください。 ・進捗管理をしっかりしましょう。 				
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書 25% ・目標管理シート 50% ・卒研週報 25% で総合的に評価する				

シラバス

作成日：2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	卒業研究Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	3	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	7	総授業コマ数	133	単 位 数	7
担 当 教 員	伊藤 克也 竹村 健司	実 務 経 験	(竹村 健司) 大手電機メーカーの社内SEとして、本社・工場におけるネットワークの設計構築支援、トラブルシューティングに携わる。また、社内エンジニアの教育を担当し、指導経験もある		
目 的 / 概 要	<p>目的： 学習成果をまとめ、プレゼンテーションを行うことで、仮説検証力や問題解決力を習得する。</p> <p>概要： 各自が研究目標を設定し、研究環境を構築を行い、総合演習として、今まで学んだ技術をもとに応用システムを研究する。</p>				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が研究目標を設定し、スケジュールにあわせて最新技術について研究することができる。 ・研究内容のプレゼンテーション資料を準備し発表を行うことができる。 ・研究内容を論文形式で記述することができる。 				
目 標 資 格					
前 提 知 識					
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	55 28 20 15 15	<ul style="list-style-type: none"> ・資料収集・開発・構築 ・検証・デバッグ ・テスト ・成果物のまとめ。 ・プレゼンテーション資料を作成し、発表会を開催する。 			
計	133				
使 用 教 材	・参考文献				
履 修 上 の 意	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ選びが大切ですので慎重に決めてください。 ・進捗管理をしっかりしましょう。 ・グループのメンバーとのコミュニケーションをしっかりとりましょう。 				
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒研成果物 50% ・卒研発表 30% ・姿勢点 20% <p>で総合的に評価する</p>				

シラバス

作成日： 2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	Windowsシステム構築Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	3	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	3	総 授 業 コマ 数	57	単 位 数	3
担 当 教 員	岩間 信喜	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	目的： Windows Serverのネットワークの構築・運用・保守のスキルを習得する。 概要： 実際にWindows Serverをインストールし、オペレーティングシステムを管理する演習を実施しながら学習する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・Windows Server 2016環境でアカウントとリソースを管理するために必要な知識を習得 ・Windows Server 2016環境でサーバーリソースの効果的な保守、サーバーパフォーマンスの監視及びデータの安全な保護を行うための必要な知識を習得 ・Windows Server 2016ネットワーク インフラストラクチャでセキュリティの実装、管理、及びトラブルシューティングを行い、Windows Server 2016 PKI の計画および構成を習得 				
目 標 資 格					
前 提 知 識	Windowsクライアントの操作経験				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		<ul style="list-style-type: none"> 5 ・第1章 Windows Server 2016の基礎知識 6 ・第2章 Windows Server 2016のセットアップ 6 ・第3章 ユーザーの登録と管理 6 ・第4章 サーバーのディスク管理 6 ・第5章 ハードウェアの管理 6 ・第6章 アクセス権の管理とサーバーの運用 5 ・第7章 ネットワーク経由のファイルやプリンターの共有 5 ・第8章 ネットワーク経由のサーバー管理 5 ・第9章 インターネットサービスの設定 2 ・第10章 Hyper-Vのセットアップ 5 ・第11章 Active Directoryのセットアップ 			
	計	57			
使 用 教 材	・ひと目でわかる Windows Server 2016				
履 修 上 の 意	<ul style="list-style-type: none"> ・マシン演習時は、なぜこの作業が必要なのかを考えながら行って下さい。 ・テキスト中のポイントとなる場所はマークして下さい。 ・補足説明については、テキストの余白に記入して下さい。 				
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 60% ・レポート提出 30% ・姿勢点 10% で総合的に評価する				

シラバス

作成日：2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	情報セキュリティⅢ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	3	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 実習 演習
コマ数 / 週	6	総 授 業 コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	伊藤 克也	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<p>目的: SEA/J応用テクニカル試験に合格するレベルの知識を身に付ける。</p> <p>概要: SEA/J認定試験に対応したSEA/Jアカデミーカリキュラムを使用し、ファイアウォール、侵入検知システム、VPN等の技術を学びセキュアなシステムを構築する技術を習得する。</p>				
到 達 目 標	<p>応用コース テクニカル編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティマネジメント・リスク分析の考え方を学習する ・情報セキュリティポリシー策定の基本を学習する ・情報セキュリティの対策計画を立てることができるようになる ・リスク分析に基づいた適切なセキュリティ対策を実施、または提案することができるようになる 				
目 標 資 格	SEA/J応用試験				
前 提 知 識	<ul style="list-style-type: none"> ・SEA/J 基礎コース認定資格取得者、または同等の知識を持つ方 ・IT全般に対する基礎的な知識を持つ方 				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		応用コース テクニカル編			
	10	・脅威			
	10	・OS Windows			
	10	・OS Linux			
	12	・DNS			
	12	・メール			
	12	・WEB			
	12	・ファイアウォール設計			
	12	・IDS運用			
12	・VPN				
12	・PKI				
計	114				
使 用 教 材	・SEA/J 応用コース テクニカル編 テキスト(SEA/J)				
履 修 上 の 意	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを用意すること ・レポート用紙(A4)を用意すること 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 90% ・姿勢点 10% <p>で総合的に評価する</p>				

シラバス

作成日：2020年 4月 1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	情報セキュリティマネジメント試験対策Ⅱ・ⅢA・ⅢB			科 目 分 類	選択必修(IT分野共通)
履 修 年 次	2・3	履 修 学 期	前期・後期	授 業 形 態	講義／実習／演習
コマ数／週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	各2
担 当 教 員	岩間 信喜 一ノ宮 義夫 星 孝	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	目的:情報セキュリティマネジメント試験に合格するレベルの知識を身につける。 概要:情報セキュリティマネジメント試験の出題範囲の内容を演習する。また、模擬試験にてその学修到達レベルを確認する。				
到 達 目 標	①部門の情報セキュリティマネジメントの一部を独力で遂行できる。 ②情報セキュリティインシデントの発生又はそのおそれがあるときに、情報セキュリティリーダとして適切に対処できる。 ③情報技術全般に関する基本的な用語・内容を理解できる。 ④情報セキュリティ技術や情報セキュリティ諸規程に関する基本的な知識をもち、情報セキュリティ機関、他の企業などから動向や事例を収集し、部門の環境への適用の必要性を評価できる。				
目 標 資 格	情報セキュリティマネジメント試験				
前 提 知 識	1年次にIT分野共通のカリキュラムを履修していること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	3	情報セキュリティ技術			
	2	情報セキュリティ管理			
	3	情報セキュリティマネジメントシステム			
	3	情報セキュリティ組織・機関			
	6	情報セキュリティ対策			
	6	情報セキュリティ実装技術			
	6	情報セキュリティ関連法規			
	1	労働関連法規・取引関連法規			
	2	ガイドライン・技術者情報			
計	2	標準化			
	1	コンピュータシステム・データベースネットワーク			
	1	プロジェクトマネジメント			
	1	サービスマネジメント			
	1	企業と法務			
	38				
使 用 教 材	・情報セキュリティマネジメント試験過去問題 ・情報セキュリティマネジメント試験予想問題集 ・模擬試験問題				
履 修 上 の 意 注	・まとめ用ノートを用意すること ・本試験と模擬試験は必ず受験すること				
成 績 評 価 の 方 法	・情報処理技術者試験の結果及びスコア ・模擬試験の点数 ・対策授業に取組む姿勢などで総合的に評価する				

シラバス

作成日：2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	基本情報技術者対策Ⅱ・ⅢA・ⅢB			科 目 分 類	選択必修(IT分野共通)
履 修 年 次	2・3	履 修 学 期	前期・後期	授 業 形 態	講義／実習／演習
コマ数／週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	各2
担 当 教 員	吉澤 毅	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<p>目的： 基本情報技術者に合格するレベルの知識を身に付ける。</p> <p>概要： 基本情報技術者試験の出題範囲の内容を演習する。また、模擬試験にてその学修到達レベルを確認する。</p>				
到 達 目 標	<p>1. 情報技術を活用した戦略立案に関し、想定する担当業務に応じて次の知識・技能を持つ。</p> <p>① 対象とする業種・業務に関する基本的な事項を理解し、担当業務に活用できる。</p> <p>② 上位者の指導の下に、情報戦略に関する予測・分析・評価ができる。</p> <p>③ 上位者の指導の下に、提案活動に参加できる。</p> <p>2. システムの設計・開発・運用に関し、想定する担当業務に応じて次の知識・技能を持つ。</p> <p>① 情報技術全般に関する基本的な事項を理解し、担当業務に活用できる。</p> <p>② 上位者の指導の下に、システムの設計・開発・運用ができる。</p> <p>③ 上位者の指導の下に、ソフトウェアを設計できる。</p>				
目 標 資 格	基本情報技術者試験				
前 提 知 識	1年次にIT分野共通のカリキュラムを履修していること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	アルゴリズムと疑似言語			
	8	プログラミング言語			
	1	コンピュータ構成要素・システム構成要素			
	1	ソフトウェア			
	1	ハードウェア			
	4	データベース			
	4	ネットワーク			
	6	セキュリティ			
	2	システム開発技術			
1	ソフトウェア開発管理技術				
2	プロジェクトマネジメント				
計	38				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報技術者過去問題 ・基本情報技術者予想問題集 ・模擬試験問題 				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用ノートを用意すること ・本試験と模擬試験は必ず受験すること 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理技術者試験の結果及びスコア ・模擬試験の点数 ・対策授業に取組む姿勢などで総合的に評価する 				

シラバス

作成日：2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	応用情報技術者対策Ⅱ・ⅢA・ⅢB			科 目 分 類	選択必修(IT分野共通)
履 修 年 次	2・3	履 修 学 期	前期・後期	授 業 形 態	講義／実習／演習
コマ数／週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	各2
担 当 教 員	川名 挙也	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<p>目的： 応用情報技術者に合格するレベルの知識を身に付ける。</p> <p>概要： 応用情報技術者試験の出題範囲の内容を演習する。また、模擬試験にてその学修到達レベルを確認する。</p>				
到 達 目 標	<p>1. 情報技術を活用した戦略立案に関し、想定する担当業務に応じて次の知識・技能を持つ。</p> <p>① 経営戦略・情報戦略の策定に際して、経営者の方針を理解し、経営を取り巻く外部環境を正確に捉え、動向や事例を収集できる。</p> <p>② 経営戦略・情報戦略の評価に際して、定められたモニタリング指標に基づき、差異分析などを行える。</p> <p>③ 提案活動に際して、提案討議に参加し、提案書の一部を作成できる。</p> <p>2. システムの設計・開発・運用に関し、想定する担当業務に応じて次の知識・技能を持つ。</p> <p>① アーキテクチャの設計において、システムに対する要求を整理し適用できる技術の調査が行える。</p> <p>② 運用管理チーム、オペレーションチーム、サービスデスクチームなどのメンバとして、担当分野におけるサービス提供と定稼働の確保が行える。</p> <p>③ プロジェクトメンバとして、プロジェクトマネージャ(リーダー)の下でスコープ、予算、工程、品質などの管理ができる。</p> <p>④ 情報システム、ネットワーク、データベース、組込みシステムなどの設計・開発・運用・保守において、上位者の方針を理解し、自ら技術的問題を解決できる。</p>				
目 標 資 格	応用情報技術者試験				
前 提 知 識	基本情報技術者試験合格レベルの知識を持っていること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	6	アルゴリズム			
	4	データベース			
	4	ネットワーク			
	8	セキュリティ			
	4	システム開発技術			
	2	ソフトウェア開発管理技術			
	2	プロジェクトマネジメント			
	2	サービスマネジメント			
	2	システム戦略			
2	経営戦略				
2	企業と法務				
計	38				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・応用情報技術者過去問題 ・応用情報技術者予想問題集 ・模擬試験問題 				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用ノートを用意すること ・本試験と模擬試験は必ず受験すること 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理技術者試験のスコア ・模擬試験の点数 ・対策授業に取り組む姿勢 				

シラバス

作成日：2020年 4月1日

学 科 名	ネットワークセキュリティ科				
コ ー ス 名	ネットワークコース				
科 目 名	高度情報技術者対策Ⅱ・ⅢA・ⅢB			科 目 分 類	選択必修(IT分野共通)
履 修 年 次	2・3	履 修 学 期	前期・後期	授 業 形 態	講義／実習／演習
コマ数／週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	各2
担 当 教 員	伊藤 克也 竹村 健司	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<p>目的： 高度情報技術者に合格するレベルの知識を身に付ける。</p> <p>概要： 高度情報技術者試験の出題範囲の内容を演習する。また、模擬試験にてその学修到達レベルを確認する。</p>				
到 達 目 標	<p>受験区分(情報セキュリティスペシャリスト/ネットワークスペシャリスト/データベーススペシャリスト/エンベデッドシステムスペシャリスト)の高度技術の専門家として、他の専門家と協力しながら高度情報技術を適用して、情報システムを企画・要件定義・開発・運用・保守するため、知識・実践能力を持つ。</p>				
目 標 資 格	情報セキュリティスペシャリスト/ネットワークスペシャリスト/データベーススペシャリスト/エンベデッドシステムスペシャリスト				
前 提 知 識	応用情報技術者試験合格レベルの知識を持っていること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	午前Ⅱ(内容は受験区分による)			
	14	午後Ⅰ(内容は受験区分による)			
	16	午後Ⅱ(内容は受験区分による)			
		<p>※学習内容はIPAで発行している情報処理技術者試験試験要項(ver1.7)に基づく</p> <p>※午前Ⅰは各自学習しておくこと</p>			
計	38				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報技術者過去問題 ・高度情報技術者予想問題集 ・模擬試験問題 				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用ノートを用意すること ・本試験と模擬試験は必ず受験すること 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理技術者試験のスコア ・模擬試験の点数 ・対策授業に取組む姿勢 				